

保健 医療 福祉 分野で社会に貢献します。

医心伝心

【いしんでんしん】

60th
Anniversary

開院60周年記念
特集号



医療法人豊田会
刈谷豊田総合病院

刈谷豊田総合病院 開院

60周年を迎えて

「患者さん第一」の温かい思いをこめた
質の高い保健・医療・福祉サービス

本年3月1日に刈谷豊田総合病院は還暦を迎えました。この日を迎えることができたのは、刈谷市、高浜市ならびにトヨタグループ8社、そして当院を受診していただいた多くの地域の皆さまのご支援の賜物と心から感謝いたします。

当院は保健・医療・福祉分野での社会への貢献を目指して、1963年に医療法人豊田会により開設され、現在は診療科目30科・病床数704床を運営しています。西三河南部西医療圏の中核病院として、特に救急医療などの



刈谷豊田総合病院 病院長
田中 守嗣

急性期医療やがん治療などの専門医療に積極的に取り組んでいます。また、地域医療支援病院、愛知県がん診療拠点病院、救命救急センター指定医療機関、災害拠点病院指定医療機関（地域中核災害医療センター）、愛知DMAT指定医療機関などに指定されています。当院では医師をはじめ、各分野のスペシャリストによる多職種連携のチーム医療を実践しています。これからも職員一丸となり「患者さん第一」の温かい思いをこめた質の高い保健・医療・福祉サービスを提供することで社会に貢献していく所存ですので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

■ 刈谷豊田総合病院 概要

- ・診療圏 刈谷市・高浜市・知立市・東浦町・大府市および、安城市・豊田市の一部（当院を中心としたおよそ半径10kmが診療圏で、人口は約70万人）
- ・病床数 704床（一般病床698床、感染症病床6床）
- ・職員数 1,754名（2023年1月現在）
- ・敷地面積 28,681,98㎡
- ・診療科目（30科目） 内科、消化器内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、精神科、脳神経内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、リウマチ科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科、歯科、歯科口腔外科



病院方針

1.<患者権利の尊重・患者第一主義>

患者権利を尊重し、当院が定める倫理方針に基づき、常に患者・家族の立場に立ち、やさしさと思いやりと笑顔で、患者によりそう医療を提供します。

2.<地域中核病院としての機能充実>

地域中核病院として、機能充実のため医療体制の確保と高度医療機器を整備し、職員は医療人として高度急性期医療、救命救急医療、地域との連携に使命感をもって取り組みさらなる充実に努めます。

3.<ICT技術の活用>

積極的にICT技術を活用し、効率的かつ安心・安全で質の高い医療の提供に努めます。

4.<働きがいのある職場づくり・人材育成>

地域の医療を支える人材の確保と、職員の主体性とチャレンジ精神を尊重した働きがいのある職場づくりと人材育成に努めます。

5.<研修医・専攻医の育成>

臨床研修病院として、基本的な診療能力および高度な専門能力を有し、チーム医療の一員として安全・安心・満足の得られる患者中心の良質な全人的医療を実践できる医師の育成に努めます。

6.<持続可能な医療提供>

病院経営の健全化、戦略的病院経営により、持続可能な医療を提供します。

7.<コンプライアンス(社会的責任を果たす)>

職員一人一人が、法令や社会的規範を遵守して事業活動を実践し、医療の提供を通じて社会の発展に貢献します。

2023年1月1日改定

広報誌タイトル

医心伝心 [いしんでんしん]

本来「心を以って心に伝う」の意、以心伝心。私たちの業務も患者さんの言葉のみに頼らず、表情、しぐさ、その向こうにある心の訴えに十分に目を向ける「心配り」を大切にすることが「医療安全」はもとより、快適な診療をお届けする基本だと考えます。そんな意を込め「以」を「医」としてタイトルにいたしました。

病院長

み~つけた!

広報誌内に登場しています。
どこにいるでしょうか?
(答えは裏表紙に記載)

3カ所
です!



豊田会 60年のあゆみ

Philosophy & Policy

理念

保健・医療・福祉分野で社会に貢献します

方針

温かい思いをこめた、
質の高い保健・医療・福祉サービスを提供します

[本体事業]



刈谷豊田総合病院



高浜豊田病院



刈谷豊田東病院



介護老人保健施設 ハビリス ーツ木

社会貢献の
こころを未来へ

[関連事業]

- 刈谷訪問看護ステーション
- 刈谷・知立・高浜 在宅医療・介護連携支援センター
- 刈谷居宅介護支援事業所
- 高浜訪問看護ステーション
- 刈谷中部地域包括支援センター

歴代理事長



初代・三代
故 石田 退三

就任期間 1962年9月26日～
(初代) 1966年1月5日

就任期間 1968年5月11日～
(三代) 1979年7月23日



二代
故 大島 鈴松

就任期間 1966年1月5日～
1968年5月11日



四代
故 白井 武明

就任期間 1979年7月23日～
1994年5月30日



五代
故 豊田 芳年

就任期間 1994年5月30日～
2013年11月11日



六代
豊田 鐵郎

就任期間 2013年11月11日～





沿革

History

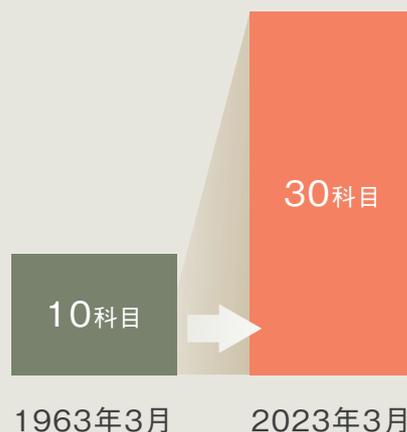
- 1962年 9月 医療法人豊田会設立
- 1963年 3月 刈谷豊田病院開院(一般病床数200床、診療科10科目)
- 1983年 1月 刈谷総合病院に名称変更
- 1995年10月 刈谷訪問看護ステーション開設
- 1999年 1月 老人保健施設ハビリス ーツ木開設(入所定員100人)
- 2000年 4月 刈谷総合病院東分院開院(療養病床100床)
介護老人保健施設ハビリス ーツ木に名称変更
- 2002年 5月 刈谷総合病院東分院透析センター開設
- 2006年 4月 刈谷豊田総合病院、刈谷豊田総合病院東分院に名称変更
- 2009年 4月 刈谷豊田総合病院高浜分院開院(療養病床104床)
- 2010年 4月 刈谷中部地域包括支援センター開設
刈谷居宅介護支援事業所開設
高浜訪問看護ステーション開設
- 2018年 4月 刈谷・知立・高浜在宅医療・介護連携支援センター開設
- 2019年 7月 刈谷豊田東病院に名称変更、高浜豊田病院に名称変更および新築移転
- 2020年 7月 刈谷訪問看護ステーション・刈谷居宅介護支援事業所を
刈谷豊田東病院に移転

数字で見る今昔

病床数推移

年	病床数				
	一般	結核	伝染	感染症	合計
1963年3月	144	56	35	0	235
2023年3月	698	—	—	6	704

診療科目数推移



外来患者数(1日平均)



医療法人豊田会設立
刈谷豊田病院開院
(病床数200床、診療科10科目)
総合病院承認



●1963年 開院

広域第二次救急病院に指定
刈谷総合病院に名称変更
コンピューター導入(医事システム導入)

健診センター開設
ICU開設
臨床研修病院に指定
日本医療機能評価機構認定取得
ISO9001認証取得(健診センター)



●2003年 新診療棟

ISO14001認証取得
歯科医師臨床研修施設に指定
臨床研修指定病院に指定
電子カルテシステム導入
ISO9001認証拡大(病院全体)
刈谷豊田総合病院に名称変更
DPC病院請求開始
災害拠点病院(地域災害医療センター)に指定
ISO14001認証取得/登録から自己宣言へ
ISO9001認証拡大(豊田会全体)



●2007年 新1棟

愛知県がん診療拠点病院に指定
ISO15189認定取得(臨床検査室)
NPO法人卒後臨床研修評価機構認定取得
内視鏡センター開設
愛知DMAT指定医療機関に指定
救命救急センター・災害拠点病院(地域中核災害医療センター)に指定
DPCⅡ群の指定を受ける
地域医療ネットワークシステム(KTメディネット)稼働
ISO14001認証取得/自己宣言を終了
第二種感染症指定医療機関に指定(感染症病床6床)
地域周産期母子医療センターに認定
地域医療支援病院の承認を受ける
化学療法センター開設
刈谷・知立・高浜在宅医療・介護連携支援センター開設



●2014年 新2棟

ISO9001認証返上、品質管理の取り組みは継続

刈谷豊田総合病院 60年の沿革



六代 故 栗屋 忍
就任期間 1998年6月1日～
2002年5月31日



七代 故 小林 正
就任期間 2002年6月1日～
2002年7月8日



八代 鈴木 克昌
就任期間 2002年12月1日～
2012年3月31日



九代 井本 正巳
就任期間 2012年4月1日～
2019年3月31日



十代 田中 守嗣
就任期間 2019年4月1日～

主な出来事

- 1964年 東京オリンピック開催 東海道新幹線開通
- 1965年 3C時代の到来(車、カラーテレビ、クーラー)
- 1966年 日本の総人口が1億突破
- 1967年 公害対策基本法公布
- 1968年 大気汚染防止法 騒音規制法施行
- 1969年 東名高速道路全通 人類初の月面着陸

- 1970年 日本万国博覧会(大阪万博)開幕
- 1972年 札幌オリンピック開催 日本の鉄道開業100年
- 1973年 石油ショックによる物価急上昇
- 1978年 日中平和友好条約調印
- 1979年 第2次石油ショック

- 1980年 日本の自動車生産台数が世界第1位に
- 1984年 日本が世界一の長寿国に
- 1985年 男女雇用機会均等法が成立
- 1989年 元号が昭和から平成に 消費税施行、税率は3%

- 1990年 バブル経済崩壊で株が暴落
- 1992年 東海道新幹線で「のぞみ」が運転開始
日本人宇宙飛行士・毛利衛さんが宇宙へ
- 1993年 法隆寺・姫路城・屋久島・白神山地が日本で初の世界遺産登録
- 1994年 日本人初の女性宇宙飛行士・向井千秋さんが宇宙へ
- 1995年 阪神・淡路大震災
- 1997年 消費税率を5%に引き上げ
- 1998年 長野オリンピック開催

- 2000年 シドニーオリンピック開催
- 2003年 小惑星探査機「はやぶさ」打ち上げ
- 2004年 性同一性障害特例法が施行 アテネオリンピック開催
- 2005年 愛知県で「愛・地球博」が開幕
- 2006年 トリノオリンピック開幕
第1回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)が開幕

- 2008年 北京オリンピック開幕
- 2009年 裁判員制度による初の裁判が始まる

- 2010年 バンクーバーオリンピック開催 日本年金機構が発足
- 2011年 東日本大震災 FIFA女子ワールドカップドイツ大会優勝
- 2012年 ロンドンオリンピック開催
- 2013年 富士山が世界文化遺産登録
- 2014年 消費税率を8%に引き上げ ソチオリンピック開催
- 2015年 マイナンバー制度がスタート
- 2016年 18歳選挙権施行 リオデジャネイロオリンピック開催
- 2017年 藤井4段が29連勝、最多連勝記録を30年ぶりに更新へ
日経平均株価が16日連続上昇、57年ぶりの歴代最長新記録
- 2018年 平昌オリンピック開催
- 2019年 元号が平成から令和に 消費税率を10%に引き上げ

- 2020年 新型コロナウイルス感染症が流行
対策の特別措置法に基づいた「緊急事態宣言」による外出等自粛
- 2021年 大谷翔平が二刀流の大活躍で最優秀選手賞(MVP)を獲得
東京オリンピック開催
- 2022年 北京オリンピック開催 成人年齢が18歳に引き下げ

1960

1962年 9月
1963年 3月

1970

1980年 4月
1983年 1月

1980

1990年 1月
1991年 4月
1993年 4月
1998年 6月
1999年 8月

1990

2000年 2月
2001年 4月
2003年 9月
2006年 1月
2006年 2月
2006年 4月
2006年 6月
2007年 3月
2007年 12月
2008年 3月

2000

2010年 6月
2010年 11月
2011年 2月

2010

2011年 3月
2011年 4月
2012年 4月
2012年 10月
2013年 3月
2013年 4月
2015年 12月
2016年 9月
2016年 10月
2018年 4月

2020

2020年11月

HISTORY

of KARIYA TOYOTA General Hospital

歴代病院長



初代 故 古居 亮治郎
就任期間 1963年3月1日～
1966年12月25日



二代 故 大野 道夫
就任期間 1966年12月26日～
1979年9月30日



三代 故 小谷 彦藏
就任期間 1979年10月1日～
1993年6月30日



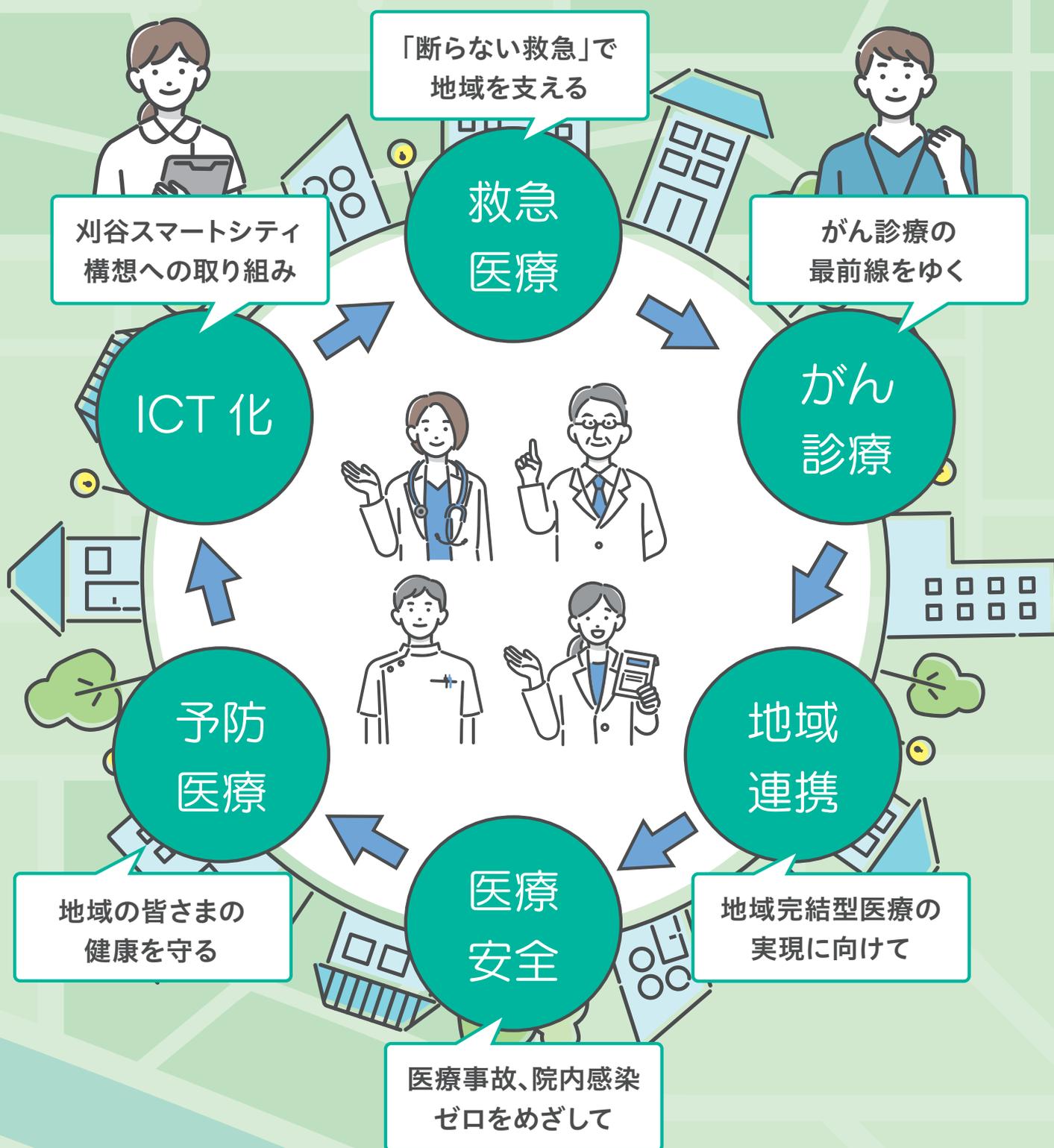
四代 故 鈴木 貞輔
就任期間 1993年7月1日～
1997年4月30日



五代 故 川島 吉良
就任期間 1997年5月1日～
1997年12月3日

地域の医療をしっかりサポート

病院の取り組み



救急医療

「断らない救急」で地域を支える

救命救急センター長 安藤 雅樹

■救急医療の皆として

軽症から重症まで24時間365日対応可能な救命救急センターとして「断らない救急」をスローガンに、各部門が一丸となり救急医療を提供しています。年間救急受診者数は2万5千人を超え、救急車搬送件数は8千件以上と県内でもトップクラスの実績を誇り、新型コロナウイルス感染症の流行下においても「救急医療の皆」として、この地域の救急医療を支えています。

■救急隊との連携

救急医療では、早期に緊急治療が必要な場合があります。当院では、救急隊の要請に応じて、救急現場に医師や看護師を派遣する「ドクターカー」の運用を行っており、救急隊と連携をとりながら、出動した医師らによる緊急治療を現場から行うことができる体制も整えています。このように、救急医療は救急隊との連携も非常に重要であるため、当院では救急隊との連携強化をはかる活動を定期的に行い、地域の救急医療の質を高められるよう努めています。



ドクターカー



救急外来の処置室

がん診療

がん診療の最前線をゆく

がん総合診療センター長 吉田 憲生

当院は2010年6月に愛知県がん診療拠点病院の指定を受け、さまざまな分野で高い専門性を維持しながら、がん診療の実績を積み重ねてきました。

■外科手術

患者さんに負担の少ない腹腔鏡や胸腔鏡などの手術に早くから取り組み、近年ではダヴィンチによるロボット手術を積極的に導入しています。

■放射線治療

特性の異なる2台の治療機器を患者さんに応じて適切に運用しています。特にトモセラピーと呼ばれる機器は精度が高く、かつ周囲への影響が少ない照射が可能です。

■薬物療法

化学療法センターを中心に、細胞障害性抗がん薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬などのさまざまな治療薬を使用した治療を安心して受けていただけるよう取り組んでいます。

■緩和ケア

多職種で構成された専門チームにより、がんの診断時から治療中、終末期に至るまで、どの病期の患者さんに対しても、身体的・精神的・社会的な苦痛を緩和するために適切なケアを提供しています。

がん診療に携わる全ての部門が連携し、互いに協力し合いながら、がん患者さんの治療と生活の質の向上に取り組んでいます。

地域完結型医療の実現に向けて

患者サポートセンター長 中江康之

■当院の特徴と地域連携室の活動

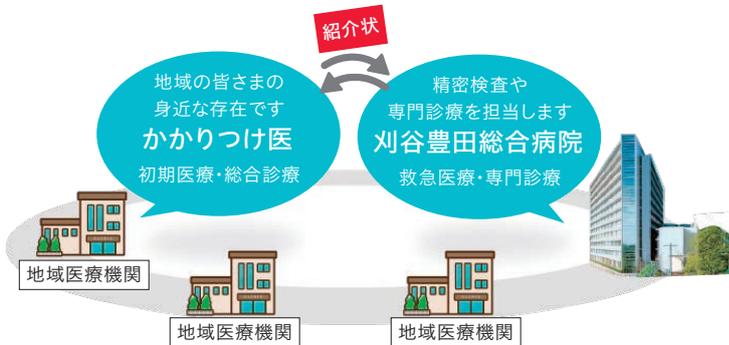
地域医療支援病院として、緊急度・重症度の高い患者さんや他の医療機関での治療が困難な患者さんをより多く受け入れる役割を全うするため、急性期医療のレベルアップをはかるとともに、日頃から地域医療機関との連携を強化する活動を推進しています。

■地域医療ネットワークシステム(KTメデイネット)の拡大

地域の医療機関とはKTメデイネットによりオンラインで結ばれ、紹介元からの検査・診察などの予約や、紹介患者さんを対象に「かかりつけ医」に当院の診療情報(診察・検査記録、画像情報など)を提供しています。引き継ぎ後の詳細な治療状況まで共有できるため、正確かつ迅速な医療連携が可能です。2022年10月より、衣浦定住自立圏(刈谷市、知立市、高浜市、東浦町)以外の医療機関も登録可能となりました。

■地域医療支援病院として

地域の医療機関との「顔の見える連携」を推進し、切れ目のない医療の提供を目指します。「つなぐ医療」から「支える医療」へ、地域医療支援病院として地域完結型医療の推進に取り組んでいます。



医療事故・院内感染ゼロをめざして

安全管理室室長 丹羽央佳

■医療事故防止のために

医療安全グループは、医療事故防止が主な役目です。重大事故を起こさぬよう日々小さな不具合を拾い上げ、改善する不断の努力が必須です。事故や、事故に繋がりに得る事象(アクシデント・インシデント)を積極的に報告するよう全職員に指導し、それらを分析して事例ごとの対応や改善・院内教育を行います。

■院内感染ゼロに向けて

感染管理グループは新型コロナウイルス感染症はもちろんのこと、さまざまな感染症に対応し、院内の見回りも行います。また、抗生剤の使い続けにより薬が効かなくなることを防ぐために、抗生剤が適正に使用されるよう指導する役目もあります。

■職員の健康を守る

安全衛生グループはワクチン接種など、職員の健康を守るための活動をしています。

このように、3つのグループで構成された安全管理室が中心となり、職種や部門の垣根を超えて、医療事故防止や院内感染対策の活動を日々精力的に行っています。



院内教育



院内見回り

地域の皆さまの健康を守る

健診センター長 中江康之

健康診断は、自分の健康状態を確認するために行います。病気の兆候がないかを調べ、「未病（発病には至らないものの軽い症状がある状態）」から「病気」にならない指導や「症状がでていない早期」に病気を見つけ治療につなげることが目的です。

■当院健診センターの特徴

当院の健診センターは、精密な医療機器を導入し、定期健診や人間ドックに加え、がん検診や脳ドック、認知機能検査など、多彩なオプション検査をご用意しています。また、女性専用エリアを設け、婦人科検診や乳がん検診を安心して受けていただける環境も整えています。さらに、エリア内で快適に過ごしていただけるように健診アシストシステムの導入やコンシェルジュの配置を行い、スムーズな受診ができるようサポートを行っています。

健診の結果、要検査となった方には二次検診や治療をご案内し、各部門と連携したフォロー体制を整えています。また、生活習慣改善のための保健指導も充実していますので、ぜひご利用ください。



受付エリア



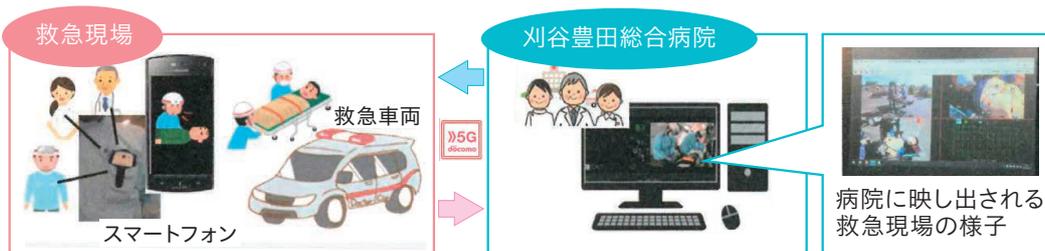
採血エリア

刈谷スマートシティ構想への取り組み

高浜豊田病院 事務長 鈴木友宏

ICT技術を活用した先進的な取り組みとして、愛知県や刈谷市および関連企業と協業した刈谷スマートウェルネスプロジェクト（刈谷スマートシティ構想）へ参加し、最新技術を医療・福祉・健康の各分野における課題解決に役立てようと実証を行っています。5Gを活用した取り組みでは、ドクターカーが派遣された現地の様子をスマートフォンで撮影し、リアルタイムな映像を院内で受信することで、迅速かつ適切な診療体制の早期構築に役立つことについて検証しています。他にもデジタル聴診器（離れた場所からスマートフォンなどに聴診音を受信する）による遠隔診療や睡眠センサーを用いた在宅医療患者の体調把握、歩行訓練ロボットによるリハビリなどの取り組みの検証を行なっています。また、新たに健康分野についての取り組みの検討も計画しています。

当院を利用される全ての方にICT技術を活用したサービスを提供できるように、刈谷スマートシティ構想を積極的に推進していきます。



5Gを活用した取り組み

刈谷豊田総合病院の
先進の医療環境を
ご紹介します！

医療の未来を拓く

先進的な医療

3台体制とし、これにより同時に3人の患者さんの手術が行えるようになります。また、コンソールという操作ボックスを一つの手術で2台使用し、ロボット手術指導医（プロクター）の指導を行うことも可能としています。今後も、この高度な医療をより安定して提供いたします。



Medicine 1

内視鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチ」が 3台体制となりました

副院長 田中國晃

ロボット支援手術は操作が容易で、精密・正確な手術を行うことができ、出血も少なく、患者さんの術後の回復が早いという利点があります。その革新的な技術により、手術件数は年々増加しています。当院では泌尿器科、消化器外科、呼吸器外科、産婦人科でロボット支援手術を行っています。保険適用疾患も多くなり、手術の種類も増え、これまでに1500件以上のロボット支援手術を行ってきました。2020年10月にダヴィンチを2台体制としましたが、手術件数の増加にさらに柔軟に対応するため、2022年11月に1台増設し、ダヴィンチXi2台とダヴィンチXi1台の

Advanced Medicine

Medicine 2

抗がん薬調製支援装置 「ダーウィン・ケモ」のご紹介

薬剤師 榊原隆志

化学療法センターでは2016年9月の開設にあわせて、抗がん薬調製支援装置「ダーウィン・ケモ」を導入しました。この装置は、双腕を有し、人に近い動きをするロボットで、抗がん薬を処方どおりに抜き取り、輸液に混合（調製）する工程を無菌環境下で行います。また、事前に薬剤をセットすることで自動で薬剤の調製を開始します。

個々の薬剤の特性に配慮した正確な調製によって抗がん薬投与の安全性が向上するほか、抗がん薬曝露の危険性が最も高いと言われている調製をロボットが行うことで、医療従事者の曝露を低減できます。さらに抗がん薬の毒性を失活させるオゾン水による洗浄機能を有しており、輸液バックなどに付着した抗がん薬を取り除くことができるため、投与を行う看護師や治療に同席するご家族への曝露も低減できます。

ロボットに調製業務を代替させることで、薬剤師は患者さんと接する時間を増やすことができます。現在、外来で抗がん薬治療を行っている全患者さんの薬剤管理指導を化学療法センターに集約し、専門の認定薬剤師による薬剤指導が可能となりました。医師や看護師と密に連携し、より高度な医療の提供に努めています。



今昔物語

現在と過去とでどんな変化があったのかをご紹介します

泌尿器科

近藤厚哉

設備的な新旧は？

膀胱内の異常を診断するための膀胱鏡検査は、泌尿器科診療に欠かせません。とても有用な検査ですが、金属製の硬性膀胱鏡の検査は痛みを伴うため、特に男性の患者さんには負担となっていました。10年ほど前から痛みの少ない軟性膀胱鏡・軟性ファイバースコープを導入し、患者さんの負担が軽減されました。

運用の新旧は？

20年程前の泌尿器科の手術は開腹手術が一般的でしたが、大きな皮膚切開を行うため、手術後の痛みも強く、治るのにも時間がかかりました。その後、皮膚に小さな穴を数カ所あけて行う腹腔鏡下手術が導入され、2013年からは内視鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入されたことで、体への負担は少なく、精密な手術が行えるようになりました。

昔



手術室

今



内視鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチ」



内視鏡手術室

検査や手術の機器をそろえ、負担の少ない治療を提供していきます。



充実した環境で、患者さんの診察ができています。

看護部

能登智恵美

設備的な新旧は？

旧病棟は6人部屋があり、看護をするにもゆとりが少なかったですが、新病棟が建設され、全ての病室が4人以下となり、療養環境が改善されました。また、ベッドサイドでケアする際も十分なスペースが確保され、より安全にケアできるようになりました。

運用の新旧は？

以前の看護師の制服は、ワンピースとナースキャップでした。ナースキャップは看護の象徴とされますが、実際はいろいろな所に引っかかったり、ぶつかったりと不便でした。そこで、感染面や業務の効率化を考え、ナースキャップの廃止と白衣もズボンタイプへと変更されました。今では数種類の中から、自分の好きな組み合わせを選択できます。

今



昔



ユニフォームの変化

これからも心身共に患者さんを癒せる看護を提供しましょう。



職場環境や療養環境が整備されたことがわかりました。

薬剤部

江崎 秀樹

設備的な新旧は？

多くの業務がシステム化され、機器も安全かつ効率的なものへと変わりました。特に抗がん薬調製支援装置「ダーウィン・ケモ」は導入施設の少ない装置です。以前は薬剤師が曝露しないように完全防備をして安全キャビネット内に腕だけ入れて抗がん剤を混注(薬を混ぜたり調整したりすること)していましたが、現在は装置がその多くを混注してくれます。

運用の新旧は？

以前は調剤中心の業務でしたが、現在は病棟業務をはじめ、他職種と連携した業務が多くを占めるようになりました。業務の拡大に伴い、薬剤師の人数も年々増えています。40年前は20名だったスタッフが現在では63名になりました。

今



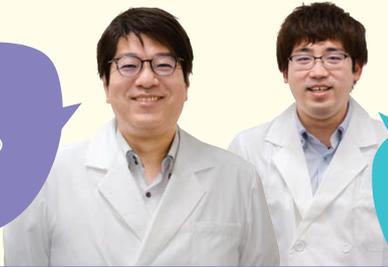
抗がん薬調製支援装置

昔



人の手による混注作業

病院薬剤師の業務の変化を改めて実感しました。今後もさらに病院薬剤師の可能性を追求していこう。



他の病院では見たことがない機械が多くあり、とても驚きました。

放射線技術科

川崎 真啓

設備的な新旧は？

診療放射線技師の業務は、一枚のフィルムでX線写真を撮影し、手作業で現像する所から始まりました。現在は、ヴァーチャルリアリティや人工知能(AI)といった多様な画像解析技術が医用画像へ応用されており、より先端技術を使用する職業へと進化を遂げています。

運用の新旧は？

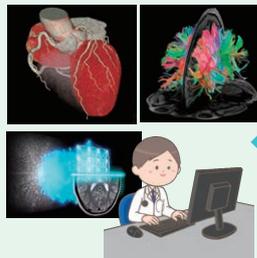
以前のレントゲン撮影は、フィルムの準備や撮影、現像、配達などの役割があり、多くの人手が必要でした。現在はデジタル化が進み、撮影と画像送信のみで検査業務が完結できるため、検査室一部屋に対して診療放射線技師一人という体制が進んでいます。

今

撮影・画像送信

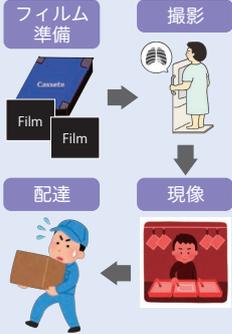


Only!



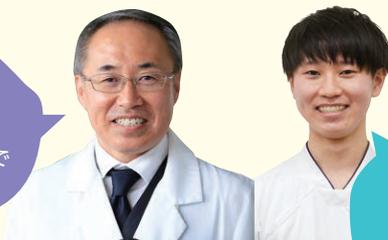
デジタル化、多様な画像解析技術

昔



アナログ作業

医療技術の革新が凄まじい中、今後も患者さん第一で取り組みます。



新技術が導入されるため、常に勉強が大切だと思いました。

今昔物語

臨床検査・病理技術科

宮本康平

設備的な新旧は？

臨床検査は、検査項目を一つ一つ手作業で測定することから始まりました。その後、検査内容の多様化や検査報告の迅速さが求められるようになり、全自動分析装置の普及と共に検査室の規模は拡大していきました。現在では、IT技術を活用した先進的な検査室に進化しています。

運用の新旧は？

分析装置の普及とIT技術の導入により、手作業であった検査業務が飛躍的に効率化され、迅速な検査体制を敷くことが可能となりました。現在では検査に関するアドバイスサービスを行ったり、救急医療の現場で他職種と協働したりするなど、貢献の場を広げています。

これからも
ヒトとつながる
臨床検査を大切に。
AIに負けないぞ！

今



検体搬送システム



多項目自動血球計数装置

昔



検査室風景



全自動血球計数装置



想像以上に
医療現場への
業務拡大が
行われており、
驚きました。

リハビリテーション科

小川真

設備的な新旧は？

2007年の新棟開設に伴い、地下1階の旧リハビリ室から、広く明るい現在のリハビリ室に生まれ変わりました。

最新の機器を積極的に導入し、歩行練習支援ロボットや自動車運転の能力を確認するドライブシミュレーターなどが活躍しています。嚥下（口の^{えんげ}中の食物を胃にのみ下すこと）の状態を確認し治療に生かすよう、嚥下造影検査(VF)や嚥下内視鏡検査(VE)も積極的に行っています。

運用の新旧は？

地域社会のニーズに応じて、超急性期から回復期のリハビリ、退院後の訪問リハビリや介護保険下でのデイケアまで、途切れなく提供しています。さらに、地域や行政と連携した予防的な関わりまで、私たちが関わる範囲は広がっています。また、ITを活用した遠隔会議なども積極的に導入しています。

今



歩行練習ロボット(ウェルウォーク)



ドライブシミュレーター

昔



旧リハビリ室



常に向上心を持ち、
患者さんに寄り添った
リハビリを
提供します。

スタッフ数は
80名を超えました。
教育体制の整備に
注力しています。

今昔物語

臨床工学科

杉浦芳雄

設備的な新旧は？

昔のどことなく古びた感じの医療機器と最新の医療機器を比較すると一目瞭然です。機器の多様化に伴い、臨床工学技士の活躍の場が広がっており、医療機器と共に私たちも発展中です。

運用の新旧は？

当科が発足したのは約26年前と、他職種に比べ比較的新しく、透析、人工心肺、高気圧酸素治療を役割の中心としていました。近年はそれらに加え、ロボット手術をはじめとする多くの医療機器が飛躍的に発展を遂げたことにより、多岐に渡る医療機器の管理を行っています。アナログ時代からデジタル時代へ、世間と同様にIT技術の進歩が多なる影響を与えたと思います。

医療機器の管理や安全性の担保のために臨床工学技士の役割は重要となりますね。

デジタル化や医療の進歩と共に、私たちも学び続けます。



今



デジタル計測



ダヴィンチ手術



高気圧酸素治療(装置のスリム化)

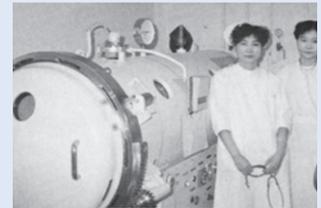
昔



アナログ計測



内視鏡外科手術



高気圧酸素治療

今



調理室



栄養指導の様子



チーム回診への参加

昔



調理室

栄養科

木島綾乃

設備的な新旧は？

中央棟の主厨房は、ガスからオール電化となり、調理環境が改善されました。クックチル(調理後に急速冷却し、食事提供のタイミングで再加熱する調理法)を使用した調理システムや、温度管理システムによるデータ化により、衛生管理も徹底されています。

運用の新旧は？

給食業務は委託化し、栄養管理業務を充実させています。栄養指導や病棟担当栄養士による栄養ケア、チーム回診への参加により、臨床栄養の専門性がますます求められるようになりました。個別対応の依頼も増えており、患者さん一人一人に寄り添った食事の提案を心掛けています。

患者さんへの熱い思いは今も昔も、そしてこれからも変わらず持ち続けていきます。

カルテ上で判断せず、実際に訪問して食事調整を行う場面が多く驚きました。



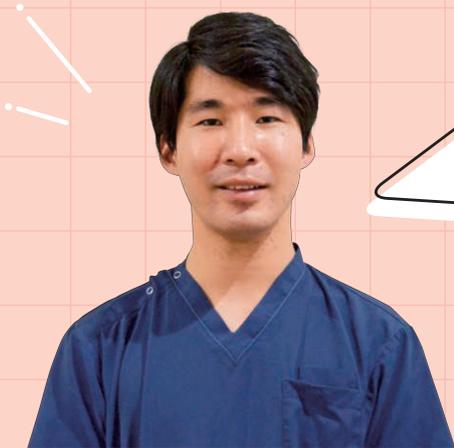
職場の好きなところは？

どんな病院にしたい？

仕事のやりがい、楽しいことは？

VOICE

～若手職員の声～



職種 医師

かめしま ゆうき
氏名 亀島 祐貴

Q.1 職場の好きなところは？

仕事が多い時は助け合い、和気あいあいとした雰囲気があります。同期も先輩・後輩も分け隔てなく相談や情報共有ができ、協力して診療を行っています。

Q.2 仕事のやりがい、楽しいことは？

難しい疾患や複数の疾患を抱えている患者さんを診療させていただき、知識を絞り、周囲とも協力して最終的に改善が得られた時にやりがいや楽しさを感じます。

Q.3 どんな病院にしたい？ 未来はどんな病院になっていると思う？

地域の基幹病院として各診療科が十分な技術を有し、高いレベルの診療を行っている病院を目指したいです。自分も内科の一員として、その実現に向けて努力したいです。

Q.1 職場の好きなところは？

コミュニケーションが活発に取られており、年齢に関係なく誰でも意見を言いやすい職場です。自然と「お疲れさまです」「ありがとうございます」の言葉が飛び交っている職場が温かく感じて好きです。

Q.2 仕事のやりがい、楽しいことは？

患者さんと日々関わる中で、状態の変化を早期発見できた時にやりがいを感じます。また、自分が行った看護ケアが患者さんの症状緩和につながり、元気に退院されていく姿を見ると嬉しく思います。

Q.3 どんな病院にしたい？ 未来はどんな病院になっていると思う？

医療の進歩により少子高齢化が進み、医療を必要とする人が増えると思います。一人一人が専門的知識を確立し、より患者さんに寄り添い、安心安楽な医療の提供に貢献したいです。



職種 看護師

たけうち あんな
氏名 竹内 杏奈



職種 助産師

つじ なるみ
氏名 辻 成美

Q.1 職場の好きなところは？

分娩の進行具合や授乳方法などを繰り返し話し合い、判断に迷う時には必ず相談に乗ってくれる先輩方がいます。患者さん一人一人と丁寧に向き合い、病棟全体で看護をしているというチーム感を日々感じています。

Q.2 仕事のやりがい、楽しいことは？

何度経験しても一つとして同じお産に巡り合うことはありません。一人の女性がママになっていく過程、赤ちゃんが誕生する瞬間、どんな時もママと赤ちゃんの一番近くで味方になれるこの仕事を心から誇りに思っています。

Q.3 どんな病院にしたい？ 未来はどんな病院になっていると思う？

どんなに医療技術が発展しても、置き換えられないものが看護だと思います。未来も今と変わらず、患者さんの心に寄り添い、人の温かさで人を支える、という看護の本質を大切にできる病院であり続けたいです。

VOICE ~若手職員の声~

Q.1 職場の好きなところは？

同僚や先輩・後輩に恵まれており、コミュニケーションを取りながら日々の業務に取り組んでいます。さまざまな専門分野に秀でた先輩方から刺激を受けながら、業務に取り組むことができるところが好きです。

Q.2 仕事のやりがい、楽しいことは？

病院薬剤師として働く中で、新しい薬剤や治療方法について勉強しています。それが薬の副作用を未然に防いだり治療効果を高めたり、患者さんにとって適切な薬物治療につながった時にやりがいを感じます。

Q.3 どんな病院にしたい？ 未来はどんな病院になっていると思う？

人の手で行っていた業務の一部を機械が行うようになると思います。それにより、患者さんのためにより多くの時間をとることができ、患者さんに寄り添った医療を提供できる病院になると思います。



職種 薬剤師

もとき ゆうや

氏名 元木 優也



職種 診療放射線技師

は さ だ しゅうま

氏名 羽佐田 秀馬

Q.1 職場の好きなところは？

さまざまな年代の人とコミュニケーションを取れるところが好きです。また、業務前後や休憩中といった業務から離れている時間に同僚と他愛のない会話をし、一緒に笑いあえる時間がモチベーションとなっています。

Q.2 仕事のやりがい、楽しいことは？

救急患者さんのCT検査を迅速に行い、病気の早期発見、早期治療に繋がった時にやりがいを感じます。また、同僚とコミュニケーションを取り、効率よく検査を行えることが楽しいです。

Q.3 どんな病院にしたい？ 未来はどんな病院になっていると思う？

忙しい時こそ落ち着いた表情で患者さんと接し、他職種とも連携をとりながら助け合える病院を目指したいです。どんな時でも患者さんに寄り添い、柔らかい笑顔の溢れる病院にしたいです。



職種 臨床検査技師

ふじえ しゅうご

氏名 藤江 修吾

Q.1 職場の好きなところは？

同僚や先輩・後輩が分け隔てなく率直な意見を言いやすい職場であり、コミュニケーションが活発に取られています。仕事が多い時は助け合い、和気あいあいと業務に励む雰囲気が好きです。

Q.2 仕事のやりがい、楽しいことは？

検査結果が病気の早期発見につながった時にやりがいを感じます。また、自分の意見が職場の業務効率化につながった経験から、日々改善案を考えながら働くことが楽しいです。

Q.3 どんな病院にしたい？ 未来はどんな病院になっていると思う？

現在世界中でAIが普及しており、将来的に病院でも利用されると思います。AIを上手く利用しながら、自分の専門性を高め、患者さんに寄り添い、安心できる医療の提供に貢献したいです。

Q.1 職場の好きなところは？

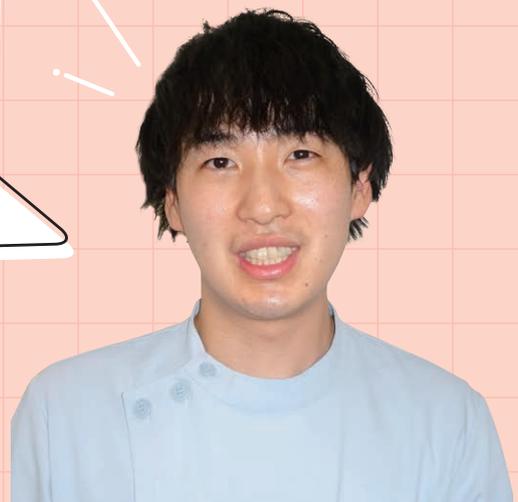
人間性や技術面で尊敬できる先輩が多く、患者さんに誠実に向き合い、高め合える職場です。より良い環境作りを常に心掛けており、働きやすい環境です。また、職員食堂の食事がおいしく、元気に仕事に取り組むことができます。

Q.2 仕事のやりがい、楽しいことは？

リハビリテーション治療に関わる中で、機能の改善を共有することや、信頼関係を築いていく過程にやりがいを感じます。最後に「ありがとう」と言葉をいただく時は、より身の引き締まる思いです。

Q.3 どんな病院にしたい？ 未来はどんな病院になっていると思う？

今後、高齢化は加速し、多様なニーズへの対応が必要となります。地域の中核を担う当院は、疾患を抱えるさまざまな患者さんの病期に応じた柔軟な対応が求められます。職員の一員として挑戦し続け、活気のある病院にしていきたいです。



職種 理学療法士

にいみ だいと

氏名 新美 大登

VOICE ~若手職員の声~

Q.1 職場の好きなところは？

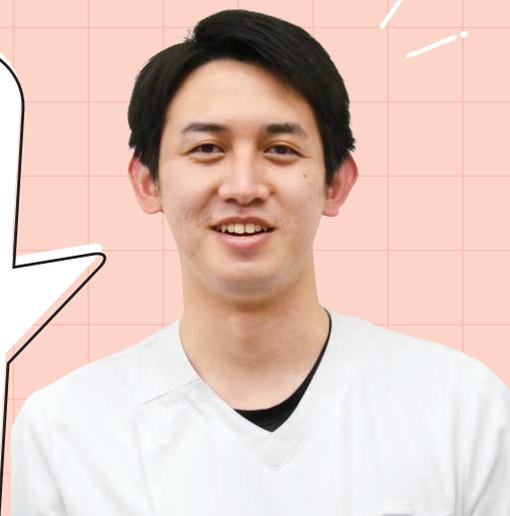
職場だけでなくプライベートでも交流が多いので、先輩・後輩の隔たりがなく、仕事がしやすい環境が好きです。新型コロナウイルス感染症により切迫した業務を全員で乗り切ろうと助け合いながら一致団結しています。

Q.2 仕事のやりがい、楽しいことは？

点検や修理などでさまざまな医療機器に携われることにやりがいを感じます。また、透析や内視鏡検査の介助、高気圧酸素治療で、患者さんと直接コミュニケーションを取れることが楽しいです。

Q.3 どんな病院にしたい？ 未来はどんな病院になっていると思う？

近年、在宅医療が推進され、多種多様な在宅医療機器が扱われています。患者さんに安心安全に使用していただけるよう、機器についての教育や管理などで携わり、質の高い医療サービスの提供に貢献したいです。



職種 臨床工学技士

に い み こう た ろ う
氏名 新美 倅太郎

Q.1 職場の好きなところは？

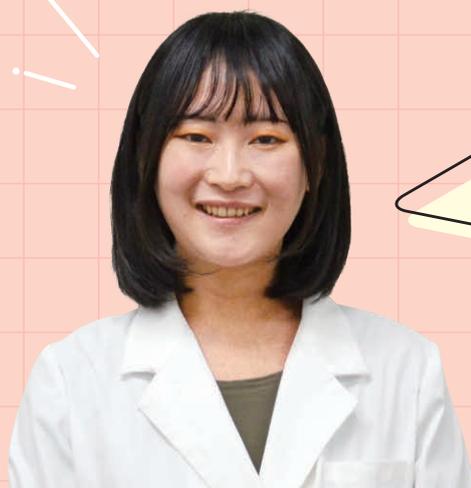
「私にとっての第二の家族は栄養科です」と言えるような環境・人に恵まれている所です。先輩方は時に厳しく、そして優しく接してくださり、知識や人間性も成長させてくれます。食べるのが大好きなところも素敵ですね。

Q.2 仕事のやりがい、楽しいことは？

患者さんだけでなく、ご家族のサポートもしたいと医療を志しました。栄養指導を通し、患者さんはもちろん、ご家族の悩みや不安に寄り添い、感謝された時にやりがいを感じます。食事は生まれ持った人間の楽しみや生きる源の一つです。それを支え、栄養面から治療に貢献できることを大切にしています。

Q.3 どんな病院にしたい？ 未来はどんな病院になっていると思う？

いろいろな技術が進化し効率化される中で、医療従事者が患者さんに向き合う時間が長くなるかもしれません。その分、患者さんとご家族の思いを大切にできる病院であり続けたいと思います。



職種 管理栄養士

つじ ともか
氏名 辻 友花

Q.1 職場の好きなところは？

部署内の風通しが良いところです。自分の力量不足で患者さんが不利益を被ることがないか不安でしたが、先輩方に相談しやすい雰囲気があり、相談すると自分のことのように親身になって一緒に考えてくださるので、業務の不安解消につながりました。

Q.2 仕事のやりがい、楽しいことは？

社会福祉士の専門性を発揮できた時にやりがいを感じます。医師や看護師などの他職種と会議を行う際は、患者さんの今後の療養方針について、社会福祉士の視点で意見を言えるよう心掛けています。

Q.3 どんな病院にしたい？ 未来はどんな病院になっていると思う？

地域の医療や福祉の中心的役割を担う病院になっていると思います。社会福祉士は日ごろから地域の他機関や他施設と連携をはかることが多い職種です。これからも業務で関わる地域の方々との連携強化をはかり、病院と地域の関係づくりに貢献していきたいと思います。



職種 社会福祉士
(医療ソーシャルワーカー)

こまつ
氏名 小松 ななみ

Q.1 職場の好きなところは？

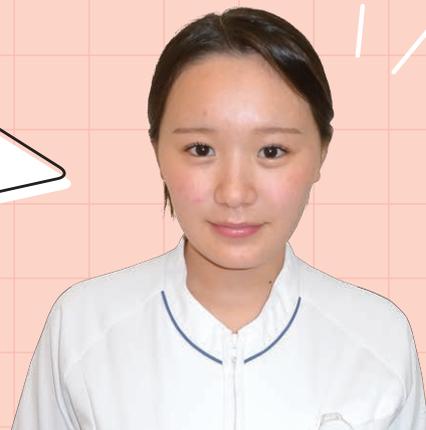
経験の少ない症例に対して、勉強する機会を設けていただけます。疑問に感じたことを解決し、新しい知識を吸収することができ、自身の成長を感じながら働く事が楽しいです。

Q.2 仕事のやりがい、楽しいことは？

口腔ケアを継続することで、患者さんが発語ができるようになり、食事が摂取でき、退院を迎えたときにやりがいを感じます。今後も口腔ケアから健康をサポートしていきたいです。

Q.3 どんな病院にしたい？ 未来はどんな病院になっていると思う？

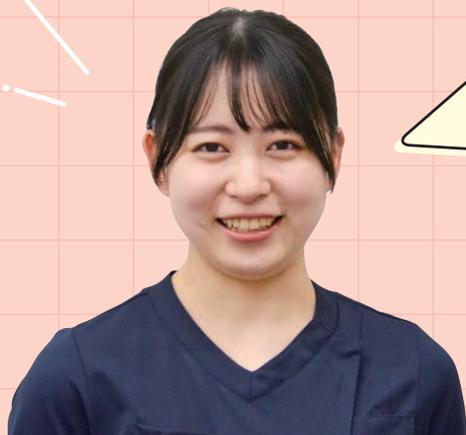
病院内の他職種との連携だけでなく、地域の他施設とも情報を共有していきたいと考えています。それにより、患者さんが安心して、安全で質の高い医療を受けられるよう尽力したいです。



職種 歯科衛生士

ふじわら の あ
氏名 藤原 乃愛

VOICE ~若手職員の声~



職種 視能訓練士

しみずかの
氏名 清水花乃

Q.1 職場の好きなところは？

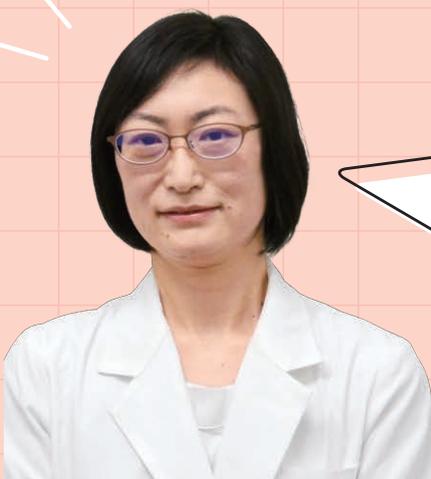
先輩方に恵まれ、和気あいあいとした雰囲気の中で日々の業務に励んでいます。互いを気遣い助け合いながら、意見を交わし、技術・知識を高められる環境で、自分の考えを持ちながら仕事ができる所が好きです。

Q.2 仕事のやりがい、楽しいことは？

できなかったことや苦手なことについて改善し、だんだんとできるようになっていったり、診断について自分の意見を持てるようになったりした時にやりがいを感じます。

Q.3 どんな病院にしたい？ 未来はどんな病院になっていると思う？

患者さんに寄り添う事を第一に、さらに技術・知識を深め、職種関係なく意見交換ができ、患者さんが安心できる質の高い医療を提供できる病院になるよう尽力したいです。



職種 聴力検査士

いわい みつえ
氏名 岩井充恵

Q.1 職場の好きなところは？

耳鼻咽喉科外来は、さまざまな職種のスタッフで構成されています。職種間のコミュニケーションも円滑で、お互いを理解・尊重し合って、業務にあたっています。休憩時はさまざまな話をして、楽しい雰囲気の職場です。

Q.2 仕事のやりがい、楽しいことは？

患者さんの聴力検査の結果が、直接診断につながることにとてもやりがいを感じながら仕事をしています。

Q.3 どんな病院にしたい？ 未来はどんな病院になっていると思う？

今は電子カルテを使用していますが、以前は紙カルテを使用していました。日々医療や技術等は進歩しますが、患者さんへの対応は変わらず、不安や苦痛を少しでも和らげ、安心して受診していただける病院となるよう心掛けたいです。

医心伝心のあゆみ

患者さん向け広報誌「医心伝心」は発行から30年以上が経過し、今号で179号となりました。病院の成長とともに変化を遂げてきた医心伝心のあゆみをご紹介します。これからも患者・家族の皆さまにご愛読いただける広報誌を目指してまいります。

創刊号 (1992年7月)
「刈谷総合病院だより」という名称で、診察の待ち時間の読み物として創刊。表紙には病院長の似顔絵が描かれていました。



21号 (1995年11月)
B5サイズからA4サイズに拡張。



62号 (2002年9月)
広報誌名を「医心伝心」に変更し、デザインもリニューアル。



83号 (2006年4月)
病院名が「刈谷豊田総合病院」となり、表紙・裏表紙をカラーに変更。



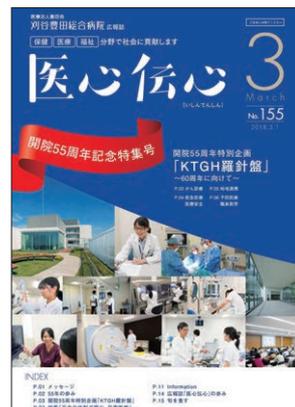
112号 (2011年1月)
表紙デザインを季節感のある写真に変更。



125号 (2013年3月)
開院50周年記念特集号。50年のあゆみと新たな取り組みを紹介。



144号 (2016年5月)
現在のデザインにリニューアル。目玉となる特集の第1号は「糖尿病」。



155号 (2018年3月)
開院55周年記念特集号。55年のあゆみと60周年に向けての取り組みを紹介。

週休2日制実施に伴う診療日変更のお知らせ

国の働き方改革推進の政策を踏まえ、当院におきましても、2023年4月から週休2日制を実施することとなりました。これに伴い、右のとおり診療日が変更となります。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

診療日	月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く) ※全ての土曜日が休診となります。
開始日	2023年4月1日(土)
救急対応	診療時間外・休日の患者受け入れ(救急外来)は、これまでどおり変更ありません。

LINE公式アカウント 病院からのお知らせをお届けしますので、ぜひ友だち登録をお願いします。

友だち登録の方法

- ①LINEのアプリをインストール
(既にLINEを使用されている方は、手順は不要です)
- ②LINEアプリのホーム右上「友だち追加」を選択

QRコードで登録

または ID検索で登録 @321arwds

お問い合わせ: (0566)-25-8007 <総務グループ>

